

物語都市ひとよし

広報 ひとよし



特集 施政方針

No.985
3.31
Mar/2011

平成23年第2回人吉市議会定例会



平成23年3月市議会定例会が3月1日に開会。田中市長が在任4年間を総括し報告しました。その市長の施政方針の全文をお知らせします。

はじめに 市民みんなが健康で笑顔で くらせるまちづくり

私は平成19年5月、市民の皆様
の温かいご理解と絶大な

るご支援を賜り、市政運営の
重責を担わせていただき、議
員各位とともに任期を満了す
ることになりました。

顧みますとこの間、国政に
おいては政権が自民党から民
主党へ移り、自民党政権から
含めてこの4年の間に首相が
5人も代わるなど混迷を深
め、国会運営、政策の面にお
きましても海凶なき航海を続
けているかのように感じてお
ります。経済面におきまして
もリーマンショック後の経済危
機を克服したものの、失業率
が若年層を中心に依然として
高水準で推移するなど、いま
だ厳しい状況にあります。地
方にとりましては更に厳しい
財政運営を余儀なくされ、地
域間競争をいかに勝ち抜くか
いかに地域特性をアピールで
きるかが重要である一方、地
域間連携の重要性も再認識し
た4年間でございました。

このような中、平成19年の
市長就任以来、私は市民の声
を大切にし、また議会のご判
断を仰ぎながら、私の政治信
条でございます「公平、公明、
公正なる、市民に開かれた、
市民のための市政運営」に取
り組んでまいりました。この
信念の下、地方が元気になる
なければ国も元気になる

協働のまちづくり “かがやき”づくりトーク と平成100人委員会

まず私が市民の皆さんと直
接語り合うことで、市政に対
する理解を深めていただき、
今後のまちづくりを協働で進
めていくことを目的として、
就任した平成19年から4年間、
「市長と語ろう」とし「か
がやき」づくりトーク」を
開催してまいりました。時に
は厳しいご意見もございまし
たが、対話の中で相互の理解
を深めることができたものと
存じます。

また、平成20年度には、市
民の皆様から広くご提案をい
ただく組織「十年後の人吉を
語る平成100人委員会」を
設置し、まちづくりについて



“かがやき”づくりトーク

と信じ、「市民みんなが健康
で笑顔で暮らせるまちづくり」
の実現に向けて、「観光で食べ
られるまち、農業で食べられ
るまち、企業誘致」を政策の
三本柱とし、同時に行政の刷
新を掲げた行政改革を推進
してまいりました。具体的
には、総合計画を軸とする行政
運営と本市のあるべき将来の
都市像を目指し、さらに私が
皆様方にお約束いたしました
マニフェストの実現に向けて、
市職員と一丸となって全力で
取り組んできたところでござ
います。

また、私は市長に就任して
最初の所信表明において、ジョ
ン・F・ケネディが、大統領
就任演説の中で使った言葉を
引用した上で、「市役所が、あ
なたのために特別に何かをし
てくれる時代は終わりました。
市民の皆様一人一人が、町のた
めに、職場のために、仲間の
のために、近所のために、家族
のために、さらには自分のた
めに、何をなすことができる
か、どのような行動が、みん
なや自分の幸せにつながるこ
となのかを考え、あるいは感
じながら、共に支えあい、励
ましあい、いたわりあつて、笑
顔とその声が絶えない町にし
てまいることが、今後のまち

計13回の会議を開催いたしま
した。平成22年7月に委員会
から、まちづくりについての提
案書を提出いただきました。こ
す。ご提案いただきました内
容につきましては、今後、本
市策定の諸計画に反映させる
など、広く市政に取り入れて
まいらなければならないと存
じます。

川辺川ダム建設白紙撤回 五木村の再生と流域の治水 対策

平成20年9月市議会定例会
におきまして、私は川辺川ダ
ム建設事業の白紙撤回を求め
る表明を行いました。その後、
蒲島知事が同様に白紙撤回を
表明され、ダム事業を巡るこ
の二つの大きな流れが、その後
の球磨川水系の治水の問題、
そして水没地区である五木村
の再生の問題に大きく影響を
及ぼしてまいりました。この
表明に対し、励ましや賛同す
る声を多数お寄せいただいた
ことで決意表明の意義を確信
もいたしました。長年にわ
たりダム事業に翻弄されてこ
うな状況に陥りました五木村の
皆様に戸惑いやご心痛をおかけし
たことに対しては、非常に悩
み、心を痛めたところでござ

います。その五木村の再生に向けての問題でございますが、期待されておりました今通常国会へのダム中止後の水源地域を救済する法律の提出が見送られ、いまだに大きな課題となっております。これまで、球磨郡町村会、あるいは川辺川ダム建設促進協議会を通して、国、県へ五木村の一日も早い再生に向けての政治判断を強くお願いしてまいりましたが、今後さらさら流域の自治体と一体となって関係機関へ強く働きかけをしていかなければならないと存じます。

一方の治水問題でございますが、年々脅威を増す集中豪雨などに対し、一定の数字上の安全度を設定してよりどころとする治水対策を容認しながらも、一貫して防災と減災への取り組みによる安全確保を訴え、各種施策を進めてまいりました。計8回にわたる「ダムによらない治水を検討する場」においても、当然、ハード整備などの施工と併せて、ソフト対策の重要性を主張してまいりました。平成23年度以降は、会議において、提示の要望があった治水対策を進める上での事業予算や年次計画などについても言及されるものと存じますし、より具

体的な治水対策、あるいは治水計画が示されるものだと期待しているところでございませう。今後も引き続き、流域治水の安全のために、地域防災力を高める対策などについて求めていかなければならないと存じます。

先人に学ぶ地域づくり 日野熊蔵初飛行100周年 記念事業

昨年実施いたしました、日野熊蔵初飛行100周年記念事業でございますが、実行委員会を組織いたしまして、テレビ熊本制作による郷土の偉人シリーズのテレビドラマ「空の開拓者 日野熊蔵伝」をメイン事業に置き、約半年にわたってさまざまな関連事業を実施いたしました。テレビドラマについては、全国ネットであるBSフジで放映し、日野熊蔵という存在、人物像、功績を全国へ広め伝えるとともに、放映に合わせて本市のPRを行いました。

また、年末の12月14日、本市寺町の生誕の地において記念式典を開催したほか、日本初飛行と記録されている12月19日の東京都渋谷区代々木公園内の航空発給の地において

の式典では、日野・徳川両家はもとより多くの関係者にご臨席を賜り、ささやかではございますが、尊敬と善意の心に満ちた温かい記念式典を挙行することができました。これらの事業に關しまして、有形無形の花を添えていただきましたすべての皆様に、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

このような、市をあげて、諸縁をたぐり寄せての取り組みが、年末の熊本日日新聞の社説で取り上げられ、先人に学ぶ形での地域づくりとして評価していただき、誠に光栄に存じます。今回の顕彰事業を通して、郷土の誇り日野熊蔵翁がその功績だけで評価されるのではなく、自らの「志」に向かって勇氣と使



熊蔵生誕の地で開催された記念式典



くま川鉄道の新企画・カフェトレイン

ら、地域の実情に合った公共交通手段の確保が必要であると存じます。

また、もう一つの公共交通であるくま川鉄道におきましては、少子化による通学利用者の減や、家用車の普及により、鉄道利用者は年々減少しており、開業当初からしますと利用者が約6割にまで落ちこみ、さらにはくま川鉄道を地域で支えるために設置をいたしました「人吉球磨地域交通体系整備基金」もここ数年で枯渇するという状況を迎えておりました。就任当初から、存続のためには経営の安定化を図るための新たな仕組みづくりや将来を見据えた中・長期の運営計画が必要と存じ、これまで協議を重ね、ようやく人吉球磨地域全体での公的負担による支援などを決定したところでございます。

施政方針

しかしながら、地域の負担だけに頼ることなく、厳しい経営状況を打開するための鉄道利用増となる策を展開していかなければならないものと存じ、地域と更なる連携を図りながら、地域の宝である「くま川鉄道」の利用促進に努めてまいらなければならぬと存じます。

財政改革 市長給与削減と職員定員適正 化計画で人件費カット

財政改革でございますが、市長給与20パーセント削減については、当選直後の平成19年6月議会にご提案させていただきました。同年7月から速やかに実施するとともに、新規採用者の抑制などマニフェストおよび定員適正化計画を着実に実行し、計画的に人件費の削減を図ってまいったところでございます。その結果、職員給与費につきましては、平成19年度と平成21年度決算額の比較において、1億9200万円余りの削減効果があり、マニフェストの削減目標を大きく上回る成果を達成できたところでございます。

命感、そして誠実さをもって生きた人生そのものが、我々に感動と感銘を与えるということが再認識できましたので、今後もこの事業の第一の目的である子どもたちに更に伝えてまいらなければならぬと意を強くしたところでございます。

姉妹都市交流とひとづくり アブランテシュ市と姉妹都市 締結・青少年交流

姉妹都市関係でございますが、国内における交流につきましては、私の任期中に鹿児島県指宿市とは30周年、静岡県牧之原市とは旧相良町の時代からいたしますと50周年という節目の年を迎えることができました。

さらに、私は任期中に、交流を通して「ひとづくり」にも取り組んでまいりました。それは、次世代を担う子どもたちに、世界における文化、歴史、考え方の違いを肌で感じてもらう、また違いを受け入れ、認め合ういわば「寛容の精神」を養い、世界からこのふるさと「ひとよし」のよさを再認識することで、郷土愛を育むといったところでございます。



アブランテシュ市への青少年交流派遣

心の中の地平線・水平線を広げ、世界にはばたく進取の精神を身につけるという目的のもと、外国との交流先の検討から始まり、現地訪問調査、ポルトガル共和国アブランテシュ市との姉妹都市締結、さらには第1回の青少年交流派遣まで取り組めたことは、一つの成果として捉えているところでございます。

公共交通 バス路線再編とくま川鉄道 再生

交通政策関係でございますが、平成23年3月12日の九州新幹線全線開業に合わせ、熊本へ人吉間に「SL人吉」の運行も再開される計画となっております。これまで、SL

行政改革

第4次行政改革大綱の推進

行政改革関係でございますが、平成20年度に第4次となる行政改革大綱「人吉市行政経営戦略計画書」を策定いたしました。今回は、マニフェストや総合計画が目指すビジョン・目標へ向けて、これまで以上にスピードと柔軟性を持つて、社会情勢の変化に対応できる行財政システムの構築を図り、具体的な改革の道筋を示すことを目的としております。国における地域主権改革が推し進められる中で、本市におきましても市民ニーズの多様化に迅速かつ的確に対応するため、本市の実態に即した80項目からなる実施計画の下、事務事業に取り組み、平成23年度まで計画的に推進していかなければならないと存じます。

入札制度改革 予定価格の事後公表と入札 監視委員会設置

入札制度改革では、入札および契約事務の透明性・公平性を高めるために、平成19



入札監視委員会

7月から予定価格の事後公表を行い、また、同年12月には、入札監視委員会を設置いたしました。これらは、これまで公表していなかった事項についても公表し、また、職員以外の方に、指名の理由および経緯などを明らかにすることで、透明性を高め、職員が法令規則などを順守することに寄与しているものと存じます。

また、一般競争入札の導入につきましては、平成21年10月に、地元業者育成の機会をできるだけ確保することも十分考慮しながら、条件付き一般競争入札を試行いたしました。現在の厳しい経済状況では、その本格導入につきましては、慎重に対処されなければならないと判断をいたしているところでございます。

補助金見直し 人吉市補助金基本条例を制定

補助金の見直しでございますが、平成21年3月に「人吉市補助金検討委員会」から、本市の補助金のあり方についての提言をいただき、それに基づき平成21年6月に「人吉市補助金基本条例」の制定をいたしましたところでございます。この条例に基づき、「人吉市補助金審査委員会」を設置し、平成21年から平成22年にかけて、本市が平成20年度に交付したすべての任意補助金の審査をしていただき、本市の補助金の交付が、適切か否かにつきまして提言をいただいたところでございます。今後はいただいた提言に基づき、補助金の見直しを検討していかねばならないと存じます。

第三セクター経営健全化 3法人の経営改善計画の推進

第三セクターの経営健全化でございますが、平成21年度において、市が資本金、基本金そのほかこれらに準ずるものを出資している法人の将来にわたる経営の健全化に必要必要な検討を行うため、人吉市行政経営検討委員会を設置いたしました。平成22年3月30日にこの委員会から「第三セクター3法人の経営健全化に関する提言」をいただき、くま川下り株式会社、くま川鉄道株式会社、球磨焼酎リサイクル株式会社と本市との協働によりまして、提言内容に沿った経営改善計画の策定および経営評価の作成を行い、引き続きこの委員会において、その内容の検討、評価をいただき、その結果に基づきまして公表を行ったところでございます。今後、第三セクターの経営健全化に向けて、官民一体となって努力してまいらなければならぬと存じます。



球磨焼酎リサイクル株式会社

防災・減災 防災実動訓練と新ハザードマップ作成

防災関係でございますが、ダム建設の白紙撤回の表明をしまして、私念頭においてまいりました。その一環といたしまして、平成20年度から毎年、継続して防災実動訓練を実施しております。本市と市民、防災関係機関が連携し、水害から市民の生命を守り、かつ被害の軽減を図るために、避難訓練や水防対応訓練などを行っているところでございます。また、平成22年6月には、新ハザードマップ（災害避難地図）を作成し、各家庭に配布いたしました。球磨川水系一級河川の浸水想定区域や土



防災実動訓練

砂災害警戒区域などを追加しておりまして、市民の皆様には危険箇所を周知することが目的でございますので、ぜひ日頃から確認をされ緊急の避難時に役立てていただきたいと思います。存じます。今後は災害から市民の生命、身体、財産を守るため、行政と市民の皆様が一体となった防災対策の推進を図り、安全・安心なまちづくりに取り組んでいかなければならないと存じます。

まちづくり 多岐分野の15人を親善大使に任命

まちづくり関係といたしましては、平成19年度から本市の地域情報を内外に発信し、地域の活性化および質の向上を図るため、まちづくり親善大使を任命してまいりました。これまで、あらゆる分野でこ

地域福祉計画策定と向う三軒両隣の復興

地域福祉関係でございますが、全ての人が住み慣れたまちで、いつまでも心豊かに暮らすために、地域における要援護者（高齢者、障がいのある人、子育て家庭など）をはじめとする、日常生活に何らかの援助を要する人の生活課題の解決のための方策について定める人吉市地域福祉計画を策定いたしました。この計画が目指す姿は、「すべての人が生きがいをもって、互いに力を出し合い、安心して豊かに暮らせる幸せいっぱいのもちづくりに」でございます。住民の力を最大限発揮できる体制づくり、「すべての分野・すべて

の人が地域福祉対象」などの7つの基本的な考え方と、『「近所」基本のまちづくり』という三軒両隣の復興』という基本的な方向の下、自助、共助、公助それぞれの取り組みを定めております。

あわせて、平成21年度からは、厚生労働省の補助事業である「安心生活創造事業」を活用し、地域において援助の必要な人もれなく把握し、そのニーズにこたえる体制づくりを行っております。

この事業は、平成23年度までの3カ年の予定で、全国で58の市町村が取り組んでいるところでございます。本市におきましてはこれまでに、社会福祉協議会へ委託して65歳以上の一人暮らしの方に聞き取り調査を行い、小地域ネットワーク活動との連携を図ってまいりました。さらには、事業者による安心生活応援団活動を立ち上げ、二重三重の見守り体制、支援体制づくりを進めているところでございます。今後は、それらの活動を維持していくための仕組みづくりなどにも取り組んでいかなければならないと存じます。

戦争体験継承事業 戦争の悲惨さを次世代へ語り継ぐ

次に、平成21年度から平成22年度の2カ年にかけて、「戦争体験と平和への想い緊急調査事業」を実施いたしました。これは、戦後60年を越える長い年月が経過し、戦争体験の風化が危惧されている中で、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代に継承していくための取り組みでございます。具体的な内容といたしまして、戦争を実体験された50人を超える市民の方々の体験談集の作成や太平洋戦争時における当時の本市のマップの作成を行いました。今後は教育の場



太平洋戦争時の市内マップ

障がい者福祉関係でございますが、知的障害者授産施設希望ヶ丘学園、知的障害者授産施設うぐいす荘および養護老人ホーム延寿荘などの福祉施設については、社会情勢などの変化に迅速に対応し、利用者本位のサービスを提供するとともに、安定的な経営基盤を確立するためには、民営化が最適であるという結論に達し、平成22年4月から社会福祉法人の人吉市社会福祉事業団へ民間委託をいたしました。このことにより、人吉市社会福祉事業団が、本市福祉行政の充実と推進に更に努められ、ほかの社会福祉法人などのモデルとなる運営を行っているところでございます。

障がい者福祉 福祉施設を人吉市社会福祉事業団へ民間委託

においてこの体験談集を活用していただき、戦争を知らない子どもたちが、戦争の悲惨さを知り、平和の尊さについて考え、さらに次の世代へ、未来へと大切に語り継いでいくことを期待する所存でございます。

活躍されている15人を任命し、本市の対外的な宣伝活動をはじめ有意義な情報提供や、まちづくりについてのご提言をいただいております。

市民相談 相談窓口を一本化し消費生活センターを新設

市民相談関係でございますが、市民の皆様は相談の窓口をわかりやすくするために、地域生活課にありました市民相談窓口と、商工振興課にありました消費生活相談窓口を一本化し、平成21年4月、市民課に暮らし安心相談係を設置いたしました。さらに、多重債務などでお悩みの方にもきめ細かな相談対応ができるよう、平成21年8月に県内市町村では熊本市、八代市に次いで3カ所目となります消費生活センターを同係内に開設いたしました。長引く不況の影響もあり、本年1月末までの相談件数は798件と昨年同時期に比べ10パーセント近く増加しております。そのような中、問題が解決した市民の方々からは、お礼の言葉や手紙をいただき、相談業務の必要性を改めて感じているところでございます。

児童福祉 就学前医療費を完全無料化

児童福祉関係でございますが、就学前医療費無料化につきましては、私のマニフェストに基づき、乳幼児医療費助成事業の完全無料化を、平成20年7月から5歳未満まで、平成21年4月から就学前までに引き上げ、保護者の方の経済的負担の軽減を進めてまいりました。また、申請手続きに



就学前までの子どもの医療費が無料化

つきましては簡素化を行い、市内医療機関につきましては、保護者の申請手続きなしで助成ができるようにいたしております。保護者におかれましては利便性が向上したものと存じます。

施政方針

子育てを重層的に支援する体制作り

子育て支援

子育て支援対策でございますが、平成21年度に策定いたしました人吉市次世代育成支援行動計画（後期計画）におきまして、本市の総合的な子育て支援施策を整理し、計画的な整備を進めております。平成22年度におきましては、地域で登録会員同士が子どもを一時的に預かり、また保育所・幼稚園への送り迎えを行うファミリーサポートセンターの設置、イヌミ本店3階にあつた九ちゃんクラブを1階空き店舗に移し、ミニ図書館やカフェコーナーを併設した「ほつ



九ちゃんクラブがリニューアル

トする側に移行された方もおられ、効果が上がっているところでございます。

介護保険の基盤整備

介護保険

介護保険関係でございますが、高齢者人口および後期高齢者の増加に伴い介護認定率も伸びてきております。このことからサービスの充実を念頭に平成19年度から平成22年度までにおきまして、高齢者が中・重度の要介護状態になつても、できる限り住み慣れた自宅または地域で生活を継続できるように、地域密着型サービス事業の基盤整備に力を入れてきたところでございます。小規模多機能事業所、認知症デイサービス、グルー

施政方針

とステーション九ちゃんクラブ」の開設、子育て情報を1冊にまとめた人吉市子育てガイドブックの発行、子育て応援担い手育成事業による保育サポーターや子育てボランティアの育成など、子育てを重層的に支援する体制作りを進めてまいりました。また、平成19年12月に人吉市要保護児童対策およびDV（ドメスティック・バイオレンス）対策協議会を設置いたしましたして、児童虐待やDVによる被害者に対し、市の関係各機関が連携して、被害者の保護と予防を行う体制を整備いたしております。

超高齢化社会を見据えたいきめ細やかな対策

高齢者福祉関係でございますが、本市の高齢化率は急速に高まっており、30パーセントに迫ろうとしております。とりわけ、75歳以上のいわゆる後期高齢者の増加が顕著でございます。まして、迫りくる超高齢化社会を見据え、本市では、ハード・ソフト両面におきまして、きめ細やかな高齢者福祉施策に取り組んでまいりました。

まず、高齢者世帯の安全対策

超高齢化社会を見据えたいきめ細やかな対策

高齢者福祉

高齢者福祉関係でございますが、本市の高齢化率は急速に高まっており、30パーセントに迫ろうとしております。とりわけ、75歳以上のいわゆる後期高齢者の増加が顕著でございます。まして、迫りくる超高齢化社会を見据え、本市では、ハード・ソフト両面におきまして、きめ細やかな高齢者福祉施策に取り組んでまいりました。

プロホーム、小規模特別養護老人ホームの設置は、平成22年度整備中を含め15カ所となりまして、介護保険事業における各生活圏域ともに充足できたと存じます。

今後、団塊の世代が高齢期に達し、介護サービスの需要も急激に伸びていく見込みであることから、在宅サービスや介護予防を重視した施策の推進に努め、これまで取り組んでまいりました施策の更なる強化・充実を図るとともに、新規プログラムの企画・立案、実践を視野に入れながら、新たな高齢者福祉の展開を図っていかねばならないと存じます。

各団体と協力し生活習慣病対策に重点

健康づくり

健康づくり推進についてでございますが、本市では、平成12年に「ひとよしヘルスプラン21」を策定し、市民との協働により健康づくり事業を展開してまいりましたが、急速な高齢化や食生活をはじめとする生活習慣の変化により、生活習慣病の増加を招き、医療費を圧迫する状況となっております。これを受け、平成

策に関するマニフェストの実現についてでございますが、緊急通報機器の無料設置につきましまして、これまで2回の要項改正を行いまして、



命のバトン

対象者の拡大、費用負担基準の緩和、手続きの簡素化などにより事業の拡充を図るとともに、市民の皆様や関係者への説明会および広報紙などを通じまして、その周知徹底に努めてまいりました。また、火災警報器の無料設置につきましまして、国の緊急経済対策を受け、75歳以上の高齢者世帯などに、1180世帯、延べ1409個を設置いたしております。

これらのマニフェストの事項に加え、新たな安全対策といたしまして、平成22年度から、徘徊の心配のある方にGPS移動端末器を携帯していただくことにより、現在位置が確認できる認知症徘徊高齢者検索システム事業の運用を開始いたしております。また、対象者の詳細情報を冷蔵庫の中

22年度におきまして、健康・教育・農業などのさまざまな関係団体や、市民団体とのパートナーシップのもと、生活習慣病対策に重点をおいた「健康増進計画・食育推進計画」を平成23年度から25年度までの3カ年計画として策定したところでございます。

より具体的に丁寧な育児方法の提供

すこやかな子育て

すこやかな子育てを推進するための取り組みについてでございますが、情報が豊富にある現代においても、子どもへの接し方や遊び方など、子育てに悩む両親が増えています。また、一方では落ち着かない子どもや、集中が続かない子どもなど、うまくコミュニケーションをとることができない子どもなども増えてくるのが現状でございます。このようなことから、少しでも子育ての悩みや困り感を解消し、安心して楽しい子育てが実現できるように、出生後の早い時期に両親と関わり、より具体的に丁寧な育児の方法を提供することが重要であるため、平成21年度から取り組んでいる乳幼児

に入れておき、救急活動に役立てていただくことを目的に、「命のバトン」を1420世帯に配布いたしました。

一方、ソフト支援センターに高齢者総合相談窓口を設置し、ご本人やご家族をはじめ民生委員、町内嘱託員の皆様などからのご相談を受けております。実績といたしましては、平成19年度4368件、平成21年度は、1万758件、さらに平成22年度は前年度を上回る相談件数が寄せられております。また、地域の皆様方と高齢者のあらゆる問題の解決へ向けて、「人吉市高齢者地域包括支援ネットワーク」を組織し、虐待・認知症高齢者の徘徊問題など地域ぐるみの見守りの充実を図っております。これらの総合的な施策により、今後、高齢者の方々が安全で安心して暮らせるまちづくりに努めていかねばならないと存じます。

高齢者の生きがい・元気づ

家庭全戸訪問事業、親子ふれあい教室や5歳児健康相談を更に充実させ、子どもの健やかな成長発達へつなげるよう、努めていかねばならないと存じます。

農業で食べられるまじづく

農業振興

農業振興関係でございますが、平成22年4月に宮崎県で発生しました口蹄疫では、本市も家畜の移動制限の規制に入り、大きな影響を受けました。関係者の皆様のご協力により、幸いにも本市での発生を阻止することができました。心から感謝申し上げます。しかしながら、韓国では口蹄疫被害が発生し、宮崎県など隣県においては鳥インフル



キクラゲ



トウガラシ

ンザの被害も拡大しており、予断を許さない状況が続いていることから、今後も畜産農家への啓発と畜舎消毒などの徹底した防疫対策をお願いしてまいりたいと存じます。

私のマニフェストの一つとして掲げております「農業で食べられるまち」を実現するため、これまで鋭意努力をいたしました。農産物ブランド化につきましては、平成20年3月に策定いたしました人吉市農産物ブランド化基本構想に基づき、これまで健康を機軸とした農産物の生産振興、販売促進への取り組みを行ってきたところでございます。具体的には、平成20年の秋から販売を開始しました「医食同源ひとよし米」は、土作りを基本とした生産部会員の有機栽培の技術向上により、安全・安心はもとより食味も良いブランド米として定着してきています。

デイサービス・デイサロン事業を積極的に展開

介護予防

一方、介護予防事業といたしましては、できるだけ介護認定を受けることなく、元気に地域で過ごしていただくために、デイサービスやデイサロン事業を積極的に展開してまいりました。デイサービスでは、介護サービス事業所3カ所と、温泉施設など3カ所を会場に、運動機能向上、口腔機能向上、認知症予防などを目的に取り組みました。結果、維持・改善率は84パーセントにも及び、中にはボランティアとして、デイサービスをサポー

くりにおきましては、人吉市老人クラブ連合会の皆様が高齢者福祉の最大のけん引車であることは自他共に認めるところでございます。「健康、友愛、奉仕」をスローガンに、これまでの活動に加え、シルバーヘルパー活動、子ども王国保安官活動などの拡充を通じまして、高齢者の生きがい・元気づくりを推進されていることはもとより、社会的貢献をいただいておりますことに深甚なる敬意を表す次第でございます。

ところでございます。

また、徳島県上勝町の「葉っぱビジネス」をお手本とした比較的軽作業で生産できる農産物でございますが、平成21年に開始した農商工連携によるトウガラシの契約栽培は、軽量野菜で高齢農家に取り組みやすく、有害鳥獣の被害も少ない有望作物であり、今後引き続き人吉トウガラシ生産部会を中心とした人吉球磨地域での生産振興を図っていかねばならないと存じます。

さらに、キクラゲにつきましては、平成22年8月末に28戸の農林家などで、農事組合法人「人吉きのこ生産組合」の設立をしたところでございます。平成23年度から本組合を中心として国産キクラゲの組織的生産、販売が行われますので、本市といたしましては、国内でも有数の生産地となりますとともに、農産物生産者の所得向上につながっていくものと期待をしているところでございます。

また、農産物生産者の所得向上には、安定した販路の確保が最も重要であるとの認識から、地産他商推進室を新設し、あらゆる機会をとらえて、大都市圏での本市農産物のP

Rはもとより、出口である販路の確保に努めてまいりました。その結果、人吉産キクラゲや医食同源ひとよし米をはじめとする人吉産野菜の販路や企業とのタイアップによる販路を確保いたしております。今後は、JANAなどの協力も得ながら、更なる販路拡大のため、農産物などの商品企画開発、新興作物の産地形成などに、より一層力を入れ、地産他商の充実を図っていかねばならないと存じます。

米の生産調整 農業者戸別所得補償制度が 本格実施

米の生産調整関係でございますが、転作がはじまって以来続けられてきました転作面積配分が、平成16年度から米の生産目標数量の配分へと改正され、平成21年度まで5年間継続してまいりましたが、平成22年度におきましては、農政の大転換の一步となる戸別所得補償モデル対策として、水田利活用自給力向上事業と米戸別所得補償モデル事業が実施をされたところでございます。本対策は、平成23年度から農業者戸別所得補償制度として本格実施をされるわけ



ミズホチカラの稲穂

でございますが、これまでの水田を対象としたモデル対策から、麦・大豆・そば・なたねといった畑作物にも対象が拡充をされ、加算措置なども整備されるようになっております。また平成20年度から生産調整対象作物として取り組んでおります焼酎原料用加工米につきましても、これまでの3年間の実績を踏まえ、本年度からは品種をミズホチカラに統一しまして振興を図っていかねばならないと存じます。

農道整備 県営錦南部農道ほか2線を 整備

農林整備関係でございますが、農業用施設につきましましては、人吉市上田代町の県道大畑西線から錦町横山の県道錦湯前線をつなぐ県営錦南



整備が進む県営錦南部農道

かんがい施設整備 施設改修で安定的な水の供給が可能に

また、かんがい施設につきましましては、市が事業主体となります団体営事業としまし

ていく上での条件整備として、下流域で農業用水を取水している水利権者団体の同意が必要になりますが、ひとよし土地改良区については既に同意をいただいております。

一方、相良村土地改良区では、事業からの除外表明者が多い二つの用水路掛を事業から除外する方針を固められ、利水事業関係6市町村長会議にその報告をされたところでございます。平成22年10月には相良村土地改良区の新理事長が就任されたことを受け、川辺川総合土地改良事業組合と同改良区との意見交換会を、同意が必要な相良村土地改良区の全組合員を対象に、本年1月21日に相良村で、全首長参加のもと開催されました。会議の開催趣旨は、農家の理解を求めするために事業内

容の説明を行い、組合員の声を直接聞いて事業の方向性を見いだそうとするものでございまして、この結果を踏まえ、今後の対応につましましては、関係市町村長と協議の上、本年度内に合意点を見いだし一定の方向性を示されるものと存じます。

林業 多面的な機能を有する森林の 整備

林業関係でございますが、本年は国連によって定められた「国際森林年」でございます。森林の多面的機能の重要性を再認識するとともに、森林・林業・木材産業の再生・発展に向けた取り組みを一層進めるまたとない機会でございます。この記念すべき年に当たりまして、国においては「森林・林業再生プラン」元年として木材自給率向上に向けたさま

ざまな施策が計画されており、外国産材の影響や住宅着工数の減少などによる木材価格の低迷、それによる森林の荒廃が懸念されている林業業界に対し、今後抜本的な対策が講じられるものと存じます。

このような状況の中、本市におきましても、地球温暖化防止機能や保水機能をはじめとする森林の有する多面的な機能の重要性を再認識し、その機能を最大限に発揮させることを念頭におきながら、これまで造林補助事業を活用した下刈り、間伐、作業道の開設および整備などを積極的に実施してまいりました。また森林整備や木材利用を効率的に実施するため、緊急経済対策の基金関係補助事業を活用して高性能林業機械の導入に取り組んできたところでございます。今後とも、国・県の補助事業を最大限に活用しながら林業の活性化ならびに林業従事者の雇用の安定を図っていかねばならないと存じます。

有害鳥獣対策 有害鳥獣被害対策協議会を 設立

有害鳥獣関係でございます

部農道整備において計画延長9000メートルのうち、平成20年1月末には人吉区間を含む4550メートルが供用の区間につきまして平成29年度完成を目指し整備をしていただいているところでございまして、本市と上球磨地域を結ぶ利便性の高い農道として利用されるものと存じます。そのほか温泉町の湯本1号線や鹿目地区の野口2号線は、市の単独事業として、平成23年度中の完了を目指し継続して農道改良を進めております。

で、大野地区の農業用パイプラインが老朽化しておりますので、取り替え工事に着手し、平成20年に完成いたしました。現在は、安定した農業用水の供給が可能となり、農業生産の維持向上につながったところでございます。また、田代溝は段塔町にあります取り入れ堰や、導水路である山間部の開水路部分が老朽化し、用水不足をきたしておりましたので、平成17年度から改修に着手し、平成21年に完成いたしました。その結果、用水不足などが解消され、年間を通して安定的な水の供給が可能となり、飼料作物などの転作作物の収穫が増加するなど、地域活力が向上したところでございます。

川辺川総合土地改良事業 関係6市町村一体となった 事業推進を

次に、川辺川総合土地改良事業でございますが、相良村議会が、条件付きながら農水省新案である既設導水路案で、事業推進に方向転換したことを受け、利水関係6市町村が農林水産省に出向き、本事業の推進要望を行ったところでございます。事業を進め

が、市では昨年3月に人吉市有害鳥獣被害対策協議会を設立いたしまして、平成22年度に国の補助事業を活用し、有害鳥獣捕獲用の各種機材の貸し出しやモデル実証園の整備など、これまでさまざまな取り組みを行ってきたところでございます。今後とも、市民の生活に甚大な影響を与えている被害に対し、補助事業を活用し、防除ネットの整備など特にハード面の整備を積極的にを行い、被害の発生予防と軽減に取り組んでいかなければならないと存じます。

中心市街地活性化 「城下町の風情」をコンセプトとした街づくり

中心市街地活性化関係でございますが、中心市街地活性化法に基づく基本計画の認定に向け、民間と行政それぞれの立場で検討を重ねてまいりましたが、市民の皆様方と意見交換を重ねる中で、マニフェストの「アミューズメントタワー構想」を白紙とさせていただき、現在は中心市街地の基本コンセプトを「城下町の風情」とし、にぎわい創出に



球磨川軽トラックさんぽ市

向けた街づくりを進めているところでございます。

そういった中、平成21年には、きじ馬スタンプ会と東・西九日町商店街振興組合が地域商店街活性化法に基づく事業計画の第1号認定を受け、現在も「球磨川軽トラックさんぽ市」などの各種事業を展開していただいております。また、商店街におかれましては国の補助事業を活用して西九日町商店街のアーケード撤去や、きじ馬スタンプのカード化事業を推進されるなど、商店街活性化に向け、活発に活動されております。

施政方針

ブランド化と海外も視野に入れた販路拡大

球磨焼酎

球磨焼酎関係でございますが、球磨焼酎酒造組合を中心とした「ジヤパンブランド育成支援事業」に關しましては、平成20年度からの3カ年事業により、海外への販路拡大事業や国内の首都圏を中心に試飲会などを実施し、一般消費者をはじめ流通業界、報道関係者など多くの皆様にご来場いただきました。今後も、国内での球磨焼酎の知名度充実とブランド化および海外への販路拡大など、関係機関と連携しながら取り組んでいかなければならないと存じます。

関係機関と連携し雇用の創出を

労働雇用

労働雇用関係でございますが、サブプライムローン問題に端を発し、世界規模に波及した金融経済危機は、国内においても経済のみならず雇用問題にも深刻な影響を及ぼしました。地方におきましても例外ではなく、本市の対策として、熊本県のふるさと雇用再

生特別基金事業および緊急雇用創出基金事業に加えて市単独予算を投入し、雇用の創出に努めてまいりました。平成21年からの2カ年の総事業費が約2億9200万円となる見込みでございますので、雇用創出だけでなく地域における大きな経済効果があつたものと存じます。しかしながら、労働雇用情勢は、相変わらず厳しい状況にあることには変わりなく、今後も関係機関と連携しながら引き続き雇用の創出に努めていかなければならないと存じます。

地域情報通信基盤整備 光ファイバー整備と地デジ化の完全移行へ

地域情報通信基盤整備推進事業でございますが、これまで高速インターネットのサービスが提供されておりましたが、野地区において、本年4月から光ファイバーによるサービスが受けられることになりました。また、この地区における地デジ放送の難視世帯には、同時に地デジ放送の再送信サービスを実施しまして視聴が可能となります。あわせて、東大塚町桑木津留地区の携帯電話

不感エリア整備事業につきましましては、光ファイバーとの接続を行い、3月からサービスを開始することといたしております。本年7月に完全移行となります地デジ放送に關しましては、これまで新たな共聴施設や高性能アンテナ設置などによる支援を行ってまいりましたが、引き続き周知・徹底を図るとともに国や放送事業者と連携しながら支援を行っていかねばならないと存じます。

企業誘致 企業立地に向け中核工業用地を整備

企業誘致関係でございますが、「人吉中核工業用地」につきましては、平成20年10月の市議会臨時会におきまして、上漆田町にあります約10・8ヘクタールの用地を「多目的運動広場用地」から目的変更の承認をいただき、具体的な企業立地に向けた整備事業を推進してまいりました。平成21年度に基本計画を策定、翌平成22年度に基本設計業務委託を実施しまして、整備計画に必要な測量業務を行い、土地利用計画、利便性、施工性、

造成費などを考慮した整備計画区域の選定をいたしております。また、平成21年度からは、国土交通省による南九州西回り自動車



土砂搬入が進む人吉中核工業用地

道工事に伴う、約30万立方メートルの建設発土を搬入し、地域住民のご理解、ご協力の下整備事業に有効活用いたしております。熊本県では、工業用地の地下水取水調査や地質調査を実施支援していただくとともに、企業情報の共有と連携を図りながら、雇用創出を図る誘致活動を積極的に展開しているところでございます。

梢山工業団地につきましては、平成8年から工業団地への立地が進まず、厳しい状況が続いておりますが、平成22年4月に南九州コカ・コー

ラボトリング株式会社人吉営業所が立地して営業を開始、同年8月には誘致企業であります共栄精密熊本株式会社、きくらげなどの菌床製造・栽培に取

り組むため、立地増設いたしております。菌床製造などによる農商工連携につきましましては、県内でも企業の異業種参入の先駆的な事業として、新たな雇用につながる農産物ブランド化事業を推進していかねばならないと存じます。

観光で食べられるまちづくり

観光振興関係でございますが、平成20年6月に青井阿蘇神社の国宝指定、翌21年

4月にはSL人吉が復活運行し、11月には肥薩線全線開通100周年を迎えるなど、人吉球磨にとりましては、まさに天の恵みをもたらした記念すべき年でございます。

私は、就任当初から「観光で食べられるまち」を目指し、観光に重点をおいた施策を展開してまいりました。肥薩線100周年事業を手始めに、JR人吉駅での記念イベントのほか、人吉球磨の物産展を開催することで観光客を迎えるなどのソフト事業を実施するとともに、人吉の玄関口であるJR人吉駅の改修に合わせて観光案内所を再整備してまいりました。

SL人吉は、平成21年4月に運行開始され、今年も九州新幹線全線開業の日と同じ、3月12日から運行が再開

されます。今後もJR九州様をはじめ、関係団体の皆様方と連携を深めながら、「おもてなしの心」や各種事業などを通して、観光地としての受け入れ態勢の更なる充実を図るとともに、九州新幹線全線開業の効果を最大限に活用できるように努めていかなければならないと存じます。具体的には、今年の10月から始まります、JRグループ旅客6社と自治体などが協働で実施する「はやとの風」、「いさぶろう・しんべい号」、「SL人吉」とを結ぶ観光ルートを積極的にPRし、本市への観光客の大きな誘客を目指してまいりたいと存じます。

人吉お城まつり 九州有数のまつりへ発展を

観光客を呼び込む本市最大のまつりとして開催いたしております、日本百名城人吉お城まつりでございますが、「いで湯と球磨焼酎・笑顔の里」のキャッチフレーズのもと、本年度4回目を迎え、回を重ねるたびに実行委員会と市民が一



日本百名城人吉お城まつりの武者行列

体となつておりまして、相良700年の歳月に育まれた人吉城と城下町を核とした、歴史や文化に基づいたまつりに生まれ変わりました。心から感謝申し上げます。このまつりには、武者行列や鉦たたき少年隊が新たに組織されるなど子どもから大人まで参加していただき、さらには、地域の融和を図る事業といたしまして、校区対抗の六調子大会を開催するなど、多くの市民の皆様にご協力をいただいております。まつりの来場者も年々増加しております。今後、県内はもとより九州有数のまつりへと発展させ、全国からの観光客誘致をもつて観光産業の浮揚を図っていかねばならないと存じます。

市民と行政が一体となり観光に「おもてなし」

平成21年4月から開催いたしております「人吉じゅくりつと博覧会」でございますが、本市へお越しいただきますお客様への「おもてなしの心」を更に高め、その充実を図ることを目的としまして、市民と行政が一体となって街中イベントをはじめ、音楽歌謡イベント、歴史文化イベントなどさまざまな催しを積極的に開催してまいりました。今年の春のじゅくりつと博覧会でご



じゅくりつと博覧会・灯りのイベント

さいませんが、3月12日に予定されております「九州新幹線鹿児島ルート全線開業」および「SL人吉運行開始」に伴うお迎えイベントをスタートとして、今回も市民の皆様と一体となって実施してまいります。実施期間は、3月12日から5月末日まででございます。この間に、鍛冶屋町通りや九日町・新町での各種街中イベントや、灯りのイベントと組み合わせた野外コンサートならびに歌謡祭のほか、街かど資料館をはじめとした歴史文化イベントなど、多くの方々にお楽しみいただける催しを実施してまいります。

任意団体であった人吉温泉観光協会は、平成22年7月に一般社団法人吉温泉観光協会として、法人格を持つ団体に組織を一新しております。組織の法人化により、活動責任の明確化がなされ、社会的信頼度が高まっているところでございます。会計管理の透明化など健全な運営が確保されることで、今後は、協会独自の事業の展開、新規会員の拡大を図りながら、あわせて組織の基盤強化を行うことにより、本市観光推進のけん引車として積極的に活動していただけるものと期待しております。ところでございます。

土木 計画的な修繕で橋の長寿命化に着手

土木関係でございしますが、人吉橋、梁橋、補強・補修工事は、平成21年度から着手して、平成22年8月にしゅん工することができました。また、本市が管理しております橋長2メートル以上の橋梁288カ所につきましては、長寿命化修繕計画策定に向けた点検業務を平成21年度に行い、従来の事後的な修繕および架け替えから、予防的な修繕および



補強工事が終わった人吉橋

計画的な架け替えへと転換することで、費用の縮減と平準化を図ることを目的とした橋梁長寿命化修繕計画を作成しているところでございます。今後、修繕が必要な橋梁につきましては、計画的に修繕工事を実施していかなければならないと存じます。

通学路として利用が多い岩本中神線の改良工事につきましては、平成4年度に着手し長期にわたって事業を進めてまいりましたが、残り100メートルにつきまして、平成23年度の完了を目指しているところでございます。また、青井二日町線につきましては、道路の補修に加え、景観に配慮したカラー舗装も行っております。平成24年度の完了を目指しているところでございます。そのほか、西駅嵯峨

里線・戸越草津線など、生活関連道路の整備につきまして、計画的に進めていかなければならないと存じます。市道の維持につきましては、毎年、市単独費で修繕工事を行っておりますが、平成22年度からは、新たに創設された社会資本整備総合交付金も活用いたしまして、紺屋町東間線、戸越鹿目線など路面の状態が悪い道路の舗装工事を実施いたしております。

都市計画道路 都市計画道路紺屋町南町線外1線が完成間近

都市計画関係でございますが、街路事業といたしましては、市の中心部を南北につなぐ重要な幹線道路である都市計画道路紺屋町南町線外1線の道路改築事業に、平成8年から15年間にわたって取り組んでまいりました。平成20年には大橋の架け替え工事を終え、九日町・大橋間を随時供用開始してまいりましたが、現在、新町地区で行っております道路改築工事の本年3月の完成をもちま

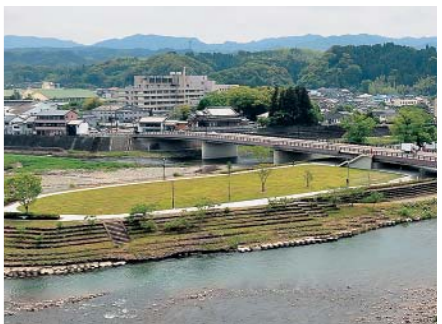


リニューアルされた駅前広場

て、事業が完了する見込みとなっております。これも多くの地権者の方々のご理解と市民の皆様のおかげで賜物であると深く感謝申し上げます。次第でございます。

駅前広場・公園整備 人吉駅前と中川原公園をリニューアル

人吉駅前広場整備事業につきましては、平成21年のSL人吉の運行開始や平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開業というまたとないチャンスを生かすため、人吉駅前を人吉球磨の玄関口として、これまで以上に旅の風情



リニューアルされた中川原公園

を感じさせる、魅力的で個性的な空間にすることを目的に整備を行い、平成22年7月に完成することができました。今回の整備により、JR九州様において改修された駅舎と調和した、相良700年の歴史を誇る城下町人吉の玄関口にふさわしい、和風で落ち着いた雰囲気駅前広場ができたものと存じます。この駅前広場を観光客の皆様には観光の拠点として、市民の皆様には憩いの場としてもご利用いただきたいと思います。

中川原公園整備事業につきましては、市民の皆様で構成された中川原公園基本構想委員会からご提言いただきました「人吉城跡や球磨川と一体となった季節感があり、誰でも憩える自然公園を目指す」という基本理念に基づき、平成

21年度に整備工事に着手し、平成22年4月に工事が完了いたしました。その後、芝生の養生のため一部使用を制限しておりましたが、同年6月に全域の開放をすることができました。夏場にはバーベキューやキャンプ、1年を通してはウォーキングやグラウンドゴルフなどと、多くの市民の皆様にご利用いただいているところでございます。

市営住宅 東間団地が完成・各種改修も実施

鍛冶屋町通り街なみ環境整備事業につきましては、平成16年度から事業に着手し、平成19年度以降におきましても、地域住民の皆様のご理解とご協力をいただきまして、5件の民家修景助成をはじめ、案内灯籠や通路などの景観整備を行うことができました。今後も引き続き、職人町としての特有の歴史・文化を

市営住宅関係でございますが、平成14年度に策定いたしました「公営住宅ストック総合活用計画」に基づき建て替えを進めておりました東間団地は、平成20年2月に高齢者にやさしいバリアフリー仕様の木造住宅、9棟24戸が完成いたしました。また、ほかの市営住宅におきましても、快適で安全な居住環境の維持



建て替えられた東間団地

を図るため、外壁や給水設備の改修、階段への手すり設置などを行っているところでございます。今後の計画といたしましては、住宅ストックの効率的かつ有効な更新とライフサイクルコストの縮減につなげていくために「公営住宅長寿命化計画」を策定し、適切な維持管理を行ってまいる所存でございます。

学校施設 耐震補強工事とエコ改修による冷暖房設置

学校施設でございますが、平成19年度におきまして、耐震の2次診断を行い、診断の結果が基準値を下回った建物に対し、年次計画を立て、安全・安心な学校づくり交付金などを活用しまして、耐震補強工事を行ってまいりました。ところでございます。平成22年度現在、市内10校で耐震補強が必要な5校のうち2校が完了し、平成23年度に2校を実施し、平成24年度で残り1校の耐震補強を実施してまいります。また、耐震補強工事に合わせて、廊下の床の張り替えや、トイレの改修など施設の大規模な改修も行い、安全・安心かつ快適

な学習環境の整備を進めていくところでございます。さらに平成22年度には、国の地域活性化・公共投資臨時交付金を活用したエコ改修事業として、市内小中学校各教室に冷暖房設備を設置し、暑さ寒さが厳しかった教室を、児童・生徒が勉学に打ち込める、より快適な学習環境へと改善を図ったところでございます。この冷暖房設備の設置に合わせまして、節電と売電、さらに、低炭素・循環型社会の構築に寄与することを目的とし、平成22年度に、安全・安心な学校づくり交付金を市内すべての小中学校に設置したところでございます。

ICT教育 ICT機器を活用しわかりやすい授業を実現

ICT（情報通信技術）教育の推進についてでございますが、平成21年度から文部科学省の学校ICT環境整備事業および総務省のユビキタスタウン構想推進事業に、また、平成22年度から総務省の絆プロジェクトに取り組みしております。その内容といたしましては、教職員1人1台の



ICT機器をつかった授業風景

校務用パソコンや児童生徒用のタブレットパソコンのほか電子黒板などのICT機器の整備を行っているところでございます。あわせて、わかりやすい授業の実現や児童生徒の情報機器活用能力の向上、教職員の校務負担軽減を図るために、教職員におけるこれらのICT機器活用のスキルアップにも取り組んでいるところでございます。

特別支援教育 支援員配置で一人一人のニーズにあった支援

特別支援教育の充実についてでございますが、通常学級に在席し、発達障がいなどで特別な支援が必要な児童生徒を支援するために、特別支援

施政方針

教育支援員を平成20年度には7人、21年度には10人、22年度には15人を雇用いたしました。必要とされる小中学校に配置しております。児童生徒一人一人のニーズや適正に応じた支援をすることができ、教職員や保護者からも大変歓迎されておりまして、学級および学校経営が安定してきたところでございます。

「不登校問題解消に向けた取り組みについて」

不登校問題解消に向けての取り組みについてでございますが、児童生徒を取り巻く社会環境および構造の変化などにより、全国の小中学校における子どもたちの不登校は、大きな社会問題となっております。本市におきましても、教職員の献身的な努力にも関わらず、増加の傾向にあり、その解消に当たるために、平成22年度から人吉っ子アドバイザー11人を配置してありますが、現在では3人体制に増員したところでございます。また、人吉市勤労青少年ホームに学校復帰へのステップとなるよう適応指導教室として「かき教室」を設けておりま

す。人吉っ子アドバイザーによるかき教室での指導や教育相談、さらに、学校と家庭との連携を密に図るパイプ役的な働きにより、不登校問題解消の兆しが少しずつ見えてきたところでございます。

「夏休みリテラシー教室」で学習意欲を定着

児童の基礎学力の定着・向上についてでございますが、小



夏休みリテラシー教室

学3年生から応用的思考が求められるようになり、それまでの基礎学力が身についているか否かが重要なポイントとなっております。そこで、地域人材や夏休みを活用し、平成20年度から、市内全小学3年生の希望者を対象として

「夏休みリテラシー教室」を開催しております。退職教師らによる学習サポーターの指導のもとに、読み・書き・計算の学習を通して、基礎学力の定着や向上に努めるとともに学ぶ喜びを味わい、2学期以降の学習意欲や家庭学習の定着につながるなど成果を上げていただいております。

引き続き人吉学校フーズが給食調理業務受託

学校給食

学校給食関係でございますが、平成19年4月から民間委託しました学校給食調理業務は、3月31日をもちまして、委託契約期間が満了となりました。県内外から5社が応募され人吉市学校給食調理業務委託業者選定委員会で厳正な審査の結果、株式会社人吉学校フーズが引き続き平成23年度から平成26年度までの学校給食調理業務を行なうことになりました。選定作業に携わっていただきました委員の皆様には、心から厚く感謝をいたしております。

「幸福」をテーマに著名人による講座を開講

生涯学習

幸福をテーマに、本当の幸せとは、心の豊かさとは何かを考える機会を設け、笑顔あふれる地域社会の構築を目指し、平成20年から「幸福追求人間学講座」を開催いたしております。これまで、エジプト考古学者の吉村作治氏をはじめ、京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督山口良治氏など4人の著名人の方々に講演いただいたいております。参加された多くの市民の皆さまには、楽しく聴講いただいたものと存じます。

参加者増加・今年は約4000人がエントリー

春風マラソン

「ひとよし春風マラソン」は、平成20年の第5回大会から、全国から多くの方々に参加いただけるマラソン大会を目指して、「いで湯と球磨焼酎・笑顔の里」をキャッチフレーズに加えて名称を新たにするとともに、内容につきましても充実を図ってまいりました。



ひとよし春風マラソン

道大会」、また「おどんな日本一相撲大会」を加え「おどんな日本一」武道大会として開催をいたしております。市内外から多くの選手の皆さんに参加していただき、まつりに花を添えていただいております。

総合型地域スポーツクラブ「人吉らしい特色あるクラブ活動」

平成20年11月には、「いきいきとしたコミュニティの創造と健康で笑顔あふれる街づくり」を目指し、子どもから高齢者まで、だれもがいつでも参加できる、総合型地域スポーツクラブ「カルヴァーリョ・ラッソ人吉」を設立いたしました。現在、14のスポーツおよび文化教室に235人が会員登録をされ、楽しく参加いただいております。今後さらに、市民の皆様のご理解のもと、本市らしい特色あるクラブ活動を推進していかねばならないと存じます。

施政方針

人吉お城まつりに花を添える大会に

おどんな日本一武道大会

「人吉お城まつり」にあわせて、平成20年に剣豪・丸目蔵人佐を顕彰する「第1回おどんな日本一全国少年剣道大会」を開催いたしました。その後、第2回大会からは「おどんな日本一高校生弓

中世城郭を含めた全体の管理と整備

史跡人吉城跡

史跡人吉城跡関係について

ますが、昭和36年に国の指定を受けて以来、今日に至るまで、さまざまな整備事業を計画的に展開してまいりました。平成14年度に着手いたしました史跡等総合整備活用推進事業につきましましては、平成19年度の堀（ほり）の復元をもって完了となり、これまでの整備事業をまとめた、「史跡人吉城跡整備報告書」を刊行したところでございます。

球磨川沿いの人吉城跡防護柵の整備は、私がマニフェストでお約束いたしましたお城名城作戦の一つでございます。観光客および市民の方々が史跡を散策されたおりに、球磨川沿いの石垣上から川に転落することがないように、安全対策の目的で、平成20年度から21年度の2カ年にわたります。防護柵を設置いたしました。防護柵の仕様ににつきましては、国・県と協議を重ね、日本百名城にふさわしく、史跡の景観にも配慮した四つ目垣仕様としたところでございます。

「史跡人吉城跡保存管理計画書」関係でございますが、平成15年度に中世城郭部分（国指定として追加されたことを受け、平成21年度から新たな「史跡人吉城跡保

存管理計画書」の策定に着手し、まもなく完了の予定でございます。また、人吉城跡景観整備事業につきましましては、人吉市のシンボルである人吉城跡の景観整備を図るため、城跡内の樹種転換を行ってまいりました。平成22年度におきましましては、国の補助を受け、幣殿・拝殿・楼門の差し茅（かや）工事に取り組んでおりまして、まもなく完了の予定でございます。

国宝指定後3棟のかやぶき屋根を補修

青井阿蘇神社

青井阿蘇神社関係でございますが、平成20年6月9日、官報告示により本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門の5棟が国宝

国の補助事業で解体・復元

岩屋熊野座神社

また、岩屋熊野座神社につきましては、関係者の方々の努力が実を結び、国の補助として採択されましたことを、大変喜ばしく存じます。保存修理事業の主な成果として、平成21年度に拝殿と覆屋の解体工事、平成22年度に拝殿と覆屋の保存修理・復元工事および鳥居の修復工事を手がけてまいりました。今後の工程につ



青井阿蘇神社のかやぶき屋根改修

きましては、引き続き、復元工事を行い、さらには文化財防災事業も計画しておりますので、国・県の指導を仰ぐとともに、関係者の方々と協議を重ねながら支援してまいりたいと存じます。

カルチャーパレス

カルチャーパレスでございますが、平成22年度に人吉球磨広域行政組合理事会におきまして、施設の老朽化に伴う改修について協議がなされ、このうち空調機の改修工事が、昨年11月から始まりこのほど完了いたしました。そのほかの改修につきましては、市への移管後、精査検討を行い、財政



老朽化が進むカルチャーパレス

老朽化した施設の改修に着手

事情を勘案しながら、順次実施していかねばならないと存じます。

また、自主文化事業につきましては、平成20年度まで年1回実施していましたが、住民の皆様の要望をお聞きし、事業内容などの検討を行いまして、より幅広くさまざまな文化や芸術の振興、発信を図るため、年々回数を増やして実施しており、多くの皆様に喜んでいただいているところでございます。

図書館

インターネットから検索が可能に

図書館関係でございますが、図書館資料の受け入れ、貸し出し、返却および管理など利用者の多様なニーズに対応するこれまでのシステムに加え、利用者がさらに利用しやすいさまざまな資料や利用環境を整えるため、平成21年10月に、「図書館インターネット蔵書検索システム」を導入いたしました。これによりまして、インターネットを利用した図書館外からの蔵書検索や新着図書案内が可能となり、利用者の利便性向上が図られたものと存じております。



蔵書検索システム

水道ビジョンに沿っておいしい水を提供

水道

水道事業関係でございますが、平成19年度以降の4年間で給水戸数は1220戸余り増加し、平成22年度末で1万5800戸ほどに達する見込みでございます。水道施設の整備関係につきましては、平成19年度から大橋・紅取橋・人吉橋・蓑野橋の添架水道管の新設改良を計画的に進めており、幹線水道管の改良や水源地などの施設整備も実施してまいりました。



おいしい水道水

また、平成20年度には水道事業のマスタープランとなる「人吉市水道ビジョン」を策

定いたしております。これは水道事業の現状と将来の見通しを分析・評価した上で、目指すべき将来像を描き、その実現のための具体的方策を示すもので、国の基本指針に基づき策定を行ったものでございます。

平成21年10月から水道料金などのコンビニエンスストア収納を開始しております。開始当初の利用件数は月450件ほどでしたが、現在は月1800件を超える利用件数となっております。このコンビニエンスストア収納の導入により、料金支払い方法の選択肢を増やし、充実させることで、お客様の利便性向上が図られたものと存じます。

今後、市水道ビジョンなどの事業計画に沿った事業経営や施設更新を実施することで水道事業の経営安定化を図り、低廉で清浄、かつお

老朽化した終末処理場の改修に着手

公共下水道

おいしい水を提供できますよう努めてまいります所存でございます。

公共下水道関係でございますが、昭和49年度の事業着手から現在の事業認可区域1029ヘクタールの整備につきましては、順調に進捗しております。未整備地区もあつとわずかという状況でございます。また終末処理場「人吉浄水苑」は供用開始からこの3月で29年が経過いたします。機械・電気設備など施設の老朽化が目立っております。平成20年度から第2期改築更新工事に着手いたしておりますが、23年度は施設内の受変電設備の改築工事に着手し、処理施設の機能維持や安全性の確保に取り組んでまいりたいと存じます。なお、平成21年度末の公共下水道の普及率は72・4パーセントでございます。熊本市に次ぐ3番目に高い普及率となっております。

快適な生活環境を目指し普及を促進

浄化槽

次に浄化槽関係でございますが、平成18年度から5カ年の整備計画で行ってまいりました循環型社会形成交付金事業がこの3月で最終年次を迎えており、5年間で約140基、5000万円を超える補助を行うことで、浄化槽の普及を促進してまいりました。今後は平成23年度から平成27年度までの整備計画を策定し、更なる浄化槽の普及を図っていかねばならないと存じます。

これら生活排水処理施設の整備は、市民が健康で快適な生活を送る上で欠かすことのできない重要な都市施設でございます。

でございますので、積極的な取り組みにより、市民の皆様の要望にお応えしてまいりたいと存じます。



以上、過去4年間にわたる主な市政の総括的なご報告を申し上げます。このほかにも多くの事業を実施してまいりまして、すべてをご報告することはできませんでしたが、不安定な国政に加え、財政面においても大変厳しい4年間に、このように大過なく市政を担当することができましたのも、関係ご当局ならびに議員各位の格別のご高配とご支援、さらには、市職員全員の献身的な努力と市民各位のご理解、ご協力の賜物でございます。

この場を借りまして、衷心よりお礼を申し上げる次第でございます。

平成23年度地方財政計画

平成23年度の地方財政計画について、その概要を申し上げます。国の平成23年度予算の基本理念は、政権交代後の新政権がゼロから取り組む最初の本予算であり、これまで先送りされてきた重要政策課題に着目し、解決していくための出発点としなければならず、とりわけ、「経済成長」「財政健全化」「社会保障改革」を一体的に実現し、元氣な日本を復活させるための礎を築く必要があるとされております。

このような基本理念の下、財政運営戦略に基づき社会保障関係経費の自然増に対応する地方の財源の確保を含め、交付団体はじめ地方の安定的な財政運営に必要となる地方の一般財源総額について、実質的に平成22年度の水準を下回らないように確保することを基本として、平成23年度の地方財政への対応を行うこととされているところでございます。

このような方針のもとで策定されました地方財政計画でございますが、地方交付税は、平成22年度に比べ約4799億円、2・8パーセ

ント増の17兆3734億円とされております。また、地方交付税の財源不足を国と地方で折半する臨時財政対策債は、地方交付税の原資となる国税5税の増収もあり、20・1パーセントの減とされているところでございます。

本市におきましては、法人の市民税が平成21年度を底として回復基調にあるところではございますが、個人の市民税は景気低迷の影響や就労人口の減少もあり、大幅な減収を見込んでいるところでございます。平成23年度も平成22年度に引き続き、所要一般財源の確保に相当な困難を要し、厳しい財政運営になることと存じます。

このように厳しい状況ではございますが、平成22年度は平成21年度に引き続き国の施策と歩調を合わせ、景気対策及び雇用対策に取り組みできたところでございます。平成23年度におきましても引き続き、雇用の確保など、市民の皆様が安心して暮らせるための事業を行っていかねばならないと存じますので、議員各位ならびに市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。





広報ひとよし 平成23年施政方針号 第935号

編集・発行 人吉市役所秘書課広報広聴係

〒868-8601 熊本県人吉市麓町16番地

http://www.city.hitoyoshi.kumamoto.jp ✉ info@city.hitoyoshi.lg.jp

☎ (0966) 22-2111 ㊚ (0966) 24-7869